

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470200938
法人名	社会福祉法人 青山里会
事業所名	四郷グループホームさくら
所在地	四日市市西日野町小溝野4014 (電話)059-322-1859
自己評価作成日	平成 21 年 7 月 21 日 (火)
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470200938&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 21 年 8 月 7 日 (金)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自立支援、生活リハビリに力をいれ、あきらめないケアをしている。 利用者に楽しんでもらう為に散歩、レクリエーションに頑張っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>車の多い幹線道路から、少し奥まった緑の多い中に、地域の在宅介護支援センター、デイサービス、小規模特養が併設されているグループホームである。設立は平成12年と県下でも古い方であるが、利用者みなで行う毎朝の清掃や手作りのタペストリーが壁を飾り、明るい雰囲気である。また訪問当日も、利用者のみさんから明るい雰囲気で迎えられ、「笑顔のあふれる家」にしようとの理念が、利用者にも浸透しているのを感じた。何でも話し合える雰囲気が職員、利用者双方にあり、利用者の高齢化が進んでいく中にも、みんなで明るさ、朗らかさをなくさない取り組みに努力している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やスタッフルームに理念を掲示することで、職員間で理念を共有でき、理念に掲げているように、利用者さん一人一人を尊重するケア、利用者さんに家と思って頂けるようなケアを実践している。	職員みんなで創った「一人ひとりを尊重し、笑顔あふれる家」を理念とし、常日頃当たり前のこととして自然に身につけており、利用者 に合せた生活を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	デイサービスの利用者との交流、障害者施設たんぼぼとの交流、地域の盆踊りへの参加。	日常の散歩の時の挨拶や地域の催物には機会を作り参加している。またすぐ近くにある中学校の生徒がゲームやおやつ作りに来てくれたり、運動会に招待されたりとの交流がある。	季節の催物等への参加だけでなく、地域の中に溶け込んだ日常的な交流ができるのが目標である。地域から期待される活動を引き受けたり、地域の人が立ち寄ってくれるような機会づくりを、積極的に行われることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献は法人で取り組んでおり、同敷地内の在介で福祉教室等開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催しており、利用者の様子、行事、事故報告等行っている。出席者から出た意見は、スタッフ間で話し合い利用者さんにとって良いことは取り入れている。	利用者家族や地域包括支援センター、事業所職員がメンバーで2ヶ月に1回開催し、意見交換されサービス向上につなげているが、地域の方の出席がない。	今後更に、地域密着型サービスとしての役割を事業所が果たすためにも、地域の幅広い関係者をメンバーに加えられ、地域の理解と支援を求められることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加頂いた。	事業所は同一法人の四郷地区在宅介護支援センターの傘下であり、センター長が行政との連携窓口になっている。管理者が直接連携を取るのはい少ないが、緊急を要する情報は直接入ってきており、意思の疎通は図れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のケアの中でスタッフ間でお互いに拘束になるような対応になっていないか確認している。玄関の施錠に関しては、何度もスタッフ間で話し合い、徐々に開錠時間を長くしている。	直接の身体拘束はもちろんキツイ言葉掛けにも注意している。ユニット毎に玄関があり、内1つが施錠されている時間が長い、職員間で話し合い開錠への努力をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や、ケア誌から虐待について学んでいる。日々、利用者の様子観察を行う事で異常の発見に努めている。又、職員間では新人などの認知症に対する理解の浅さから虐待につながらないように指導に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところは、現在利用されている方をのぞき、必要と思われる人は居ないが、必要になった時に活用していただけるように制度のことを研修や、ケア誌などで学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学、入所時に説明し理解してもらっている。改正時などの説明は、文書と、運営推進会議の場でも行っている。退所後についても法人の利点を活かし相談に応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置してどなたでも利用できるようにしている。運営推進会議でも意見もらっておりいただいた意見はスタッフ間で協議している。	意見箱が設置してあるが意見は入らない。家族の訪問時や運営推進会議の席上、意見や要望を聞き出している。出た意見は職員会議で検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際に意見を出し合ったり、日常的にも積極的に意見を出してもらい、その意見に耳を傾けるようにしている。	サービス提供に関する積極的な提案は、よく出る職場環境になっており、毎朝のミーティング等を利用したり、ミーティングノートに書き込んだりできるようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	度々責任者がグループホームに来て職員の話しを聞いて把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在働きながらヘルパーの勉強しているスタッフが2名いる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に出席し、交流の機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントシートを準備し、多方面からの聞き取りを行い、利用者の状態の把握に努めることで利用者が安心できるような関わりにつながっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や実態調査で家族の困りごと、要望等をよく聞き、良い関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人において相談の窓口を一本化し、必要とするサービスにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は嫁であり、娘、ときには友人として接し、利用者からも日々沢山のことを学んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が家族への連絡をのぞまれる場合には連絡をとるようにしたり面会や外出などしていただきやすい環境をつくるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会いたい方があれば家族の了解の下面会に来てもらったり、外出、外泊をすすめている。	毎週家に帰る利用者もあり、20年来の友人の訪問もある。お盆のお墓参りや昔の懐かしところへも家族の協力を得て行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が仲良く暮らせるようリビングの席を考えたり、話の成り行きを見守り、時には介入して話がうまくいくよう気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に入所されても遊びに来てもらって様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に出来るだけ寄り添い、意思の疎通を図りながら何でも言って貰える関係を築くよう努めている。あまり言われないうちは、日々の言動、表情から把握に努めている。	一人ひとりの希望や意向の把握を丁寧にっており、東京センター方式のシートに記入し、職員みんながいつでも見られるように、また記入できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時御家族の方に本人の生活歴を書いてもらったり、紹介していただいたケアマネさんから様子を伺うようにしている。入所時の面接の際も極力、ご本人が暮らしていらっしゃる生活の場を訪問させていただき把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の一日の過ごし方、状態について記録し、毎朝日勤者が話し合いを持ち皆が現状を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時は本人の希望、家族の意向を聞き、又スタッフの情報も得て作成している。	本人・家族の意向はもとより、一人の利用者を二人の職員が担当する職員担当者制を採用しており、毎月のモニタリングで話し合い、プランを見直し作成している。また本人の状態変化時は随時であり、定期的には3ヶ月ごとに見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人記録に記入し出勤時に目を通して見ている。それを基にモニタリングを行い、ケアプランの作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族のみえない方は本人の要望に応じて、買い物に出かけたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアや法人からの音楽療法に月数回きてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今まで通われていたかかりつけ医で受診してもらっている。又相談したいときは家族の了解を得て相談し、適切な医療が受けられるようにしている。	同一法人内に病院があるが、かかりつけ医は本人家族の希望するところでの受診支援をしており、利用者の半数は馴染みの医療機関になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同敷地内に訪問看護があり、何かあればきて貰い相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたときは家族、病院関係者と連絡をとりあっている。協力病院とは関係作りができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に終末までの対応はしないことを話、理解頂いている。そのときは介護施設への紹介をおこなっている。	同一法人内に病院や介護施設があるし、事業所建物の構造上、車イス利用者の受入れに制限があるので、終末までの対応は現在のところできないことを契約時に説明し、了解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	多くの職員が研修に行き学んでいるが、定期的に訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得たり、独自で火災を想定し避難訓練を実施しているが、地域の方の協力の働きかけはしていない。	昨年夜間の火災を想定した避難訓練を行っている。	昨年の訓練は事業所だけの訓練になっている。万一の場合、職員だけの消火・誘導では限界があるので、地域住民との連携・協力体制が必要である。また大規模地震に備えた備品の準備もお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保については常に意識し、排泄時の声掛けなど小さな声で誘うようにしている。居室への出入りも許可を得てから入るようにしている。	年長の尊厳ある人として、一番注意していることは「声掛け」である。親しくなりすぎると赤ちゃん言葉になったり、排泄時の羞恥心を損なうような言葉掛けにならないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思決定ができるような声掛けを行い、本人の意思を大事にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりごとはずらさず利用者のペースに合わせてすごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来ない方は整容に気を付け、おしゃれな方には買い物の支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいか聞いて一緒に買い物をし、共に食事作りして楽しく食べている。	毎朝、冷蔵庫の中に何があるかを確認してから利用者と一緒に買物に行き、準備、調理、盛り付け、後片付けと職員と利用者と一緒にやって行っている。職員は弁当であるが、利用者と一緒に食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が足りない方には好きな飲み物を用意したり、食事量が少ない方には、栄養補助食品を準備している。同法人の栄養士に相談することもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は歯磨きに誘い、その人に応じて見守り、声掛け、一部介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツ使用の方もトイレで排泄できるよう声掛けを行っている。また排便などは、排便パターンで合ったり、排便前の利用者の様子をよく把握して、誘導できるようにしている。	排泄パターンをしっかりと把握しており、「歩いてトイレへ」を合言葉に、あきらめないケアをしている。現在オムツの利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方だけではなく全ての利用者が、水分、野菜、果物、運動不足になっていないか注意し、把握して個々に応じた支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しみにされている方は毎日入浴してもらい、嫌がられるかたは時間を置いて誘うようにしている。	お風呂は毎日入れるように準備しており、毎日入る人もいるし、少ない人でも週に3~4回入浴している。昼間入浴できるのを喜んで利用者が多く、夜間の希望者はない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝される方されない方それぞれ好きなようにされている。夜も時間を決めずに好きな時間に休まれている。寒暖も個々に応じてエアコンを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出されたお薬表をバインダーに綴じいつでも見れるようにし、変わったときは業務日誌、スタッフノートに書き、スタッフが把握できるようにしている。また、内服変更時は、様子の変化がみられないか特に注意を払うように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯干し、食事の買い物、炊事、花の水やり等個々に合った役割を持って居る。又、手芸、貼り絵、散歩等一人一人に合った楽しみを持つよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に沢山出かけるようにし、桜の時期は花見、又本人の希望で買い物にでかけている。	天気の良い日は事業所の周りを散歩したり、玄関を出たところには長いすが置いてあり、室内だけでなく屋外での団欒も楽しんでいる。また家族の協力を得て、昔住んでいた家やなばなの里等行楽地を訪ねたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はしておらず本人が自分に応じた額をもたれている。買い物に行かれたときは自分でお金を払い買い物出来る様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望があればかけてもらうように支援している。手紙を書かれたらスタッフが預かり出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日利用者と掃除して快適に過ごせるようにしている。音、温度にも配慮し季節に応じた作品を飾って居心地よく暮らせるよう工夫している。	玄関や廊下、食堂兼居間には、季節に応じたタペストリーや、ちぎり絵の壁飾りがあり、目を楽しませてくれる。また共用空間は利用者と一緒に毎日整理整頓、清掃を行っており、気持ち良く過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭いがアクティビティーでは 一人でテレビを見たり、音楽をきいたり、又皆でお喋りできるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の希望があれば家具や電化製品はなんでも持ち込めるようになっている、今まで使われていた物も持ってきてもらい安心して過ごせるようにしている。	写真や利用者自身の手作りの作品などが飾られたり、趣味のものや馴染みの品が持ち込まれており、それぞれ居心地の良い自分の部屋作りをされている。また洗面台が各室に備え付けられており、プライバシーの面からも安心できる環境である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレはその方が分かる表示をし、居室もわかるように大きく名前を書いたりしている。		